

2020年3月3日

## 新型コロナウイルス感染拡大への対応と影響について

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、以下の対応を実施します。また、日本国内の乳製品実績と中華人民共和国（以下、中国）を始めとした海外における弊社事業への影響と支援活動につきまして、以下のとおりお知らせします。

### 1. 国内における対応

ヤクルト本社においては、時差出勤および条件による在宅勤務の実施、従事者および同居家族に感染もしくは感染の可能性が見られる場合は自宅待機とします。また、国内工場や研究所の見学中止、不急の会議および出張（国内外問わず）の見直しなどをすすめています。

また、販売会社などのグループ会社においては、本社方針のもと、各社各地の状況に応じて、感染拡大防止のための策を講じています。

ヤクルトグループ従事者の感染リスク軽減と安全確保を図り、円滑な事業活動を継続するため、今後も政府が発信する情報を速やかに収集するとともに、状況に合わせた必要な対応を迅速に実施してまいります。

### 2. 日本国内の乳製品実績

2020年1月度の国内乳製品1日当たりの販売数量は、前年同月比98.0%でした。

2月度の実績につきましては、確定実績を3月下旬に弊社ホームページ上で開示しますが、前年をやや上回る見込みです。

なお、生産活動については、特に影響は出ておりません。

### 3. 中国事業への影響と支援活動（2020年2月末時点）

#### （1）販売状況について

##### ① 1月度

1月後半から新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、前年をやや下回る実績となりました。

##### ② 2月度

新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受けましたが、前年と比べて1割強程度の落ち込みにとどまりました。

販売本数の約10%を占める宅配（ヤクルトレディによる販売）チャンネルにおいては、春節休暇以降、3月1日まで販売活動を行いませんでした。

また、販売本数の約90%を占める店頭チャンネルにおいては、うち約35%を占める個人商店の多くが今現在も営業を再開できず、わずかな販売本数となりました。

一方、店頭チャンネルの販売本数構成比約50%を占めるハイパーマート・スーパーマーケットにおいては販売活動はできたものの、大半の店舗は春節期間中から営業時間短縮等の大幅な制約を受けました。しかし、販売本数は日を追うごとに回復を示し、店頭チャンネル合計においては、ほぼ前年並みの実績となりました。

まだ2つの拠点（中国計46拠点）が営業を再開できていませんが、3月度についても順調な回復を見込んでいます。

## （2）生産状況について

春節休暇後、当局から許可をもらい稼働できましたが、需要に合わせた生産活動となりました。原材料については、在庫逼迫、入手困難な状況ではありません。

## （3）支援活動について（2020年2月末時点）

### ① 義援金および商品提供

義援金として、上海市慈善基金会に対し300万元（約4,800万円）、地方政府、病院等へ商品2,512千本を寄付

※商品を金額換算し、義援金と合計すると、約1億4千万円相当となります。

### ② マスク・保護服

地方政府へ30,000枚のマスクと14枚の保護服を寄付

## 4. その他の地域における影響

香港においては、中国本土との出入境ポイントの封鎖により、中国からの人の動きが止まり、販売実績に影響が出ております。

一方、シンガポール、マレーシア等のアジア・オセアニア地域、米州地域、欧州地域におきましては、これまでのところ、コロナウイルスの感染拡大による販売実績への影響はございません。

今後、事業の状況に大きな変化が生じた場合、改めてお知らせします。

以上